



事務所 伊那市西町5016-2 Tel(72)0077 例会日 毎週木曜日 例会場 くぬぎの杜 Tel(78)1121
 会長 唐木一平 幹事 唐木 章 会報委員長 大石ひとみ 第2888回例会 2019.11.28 No.1548



2019-20年度 RI テーマ

Rotary Connects The World

IGM 夜間例会

於：だるま 時間 18：30～

IGM (Informed Group Meeting) 夜間例会

今年度 1 回目の IGM 夜間例会をだるまにおいて、18 時 30 分より、3 班に分かれて開催しました。

会長談話 唐木一平会長

本日の IGM お疲れの中大変ご苦労様です。
 今日皆様に話し合っていたいただきたいテーマは

1. 災害支援について

台風・豪雨での大きな被害に対しての義援について話し合ってください。日を追うごとに被災の大きさを知る毎日であります。伊那市、長野県、国内そしてロータリアン。尊い命が失われ、また日常生活、そして職場においても明日の計画すら立てることも出来ず止む無く居住地を去り、廃業せざるを得ない人々、地域も多々ある現状です。幸いにも伊那は大きな被害も受けずに日常生活を送ることが出来る幸せを思い、今伊那ロータリークラブでも何が出来るのかと思うところです。行動するのならば何時、何処へ、どんな方法で、の話し合いをお願い致します。

例案として、義援活動を行えるとすれば広報に載せる方法はどうでしょうか。

2. ロータリー顕彰者について

今年度は、創立 60 周年記念式典で顕彰式を行います。今までの顕彰者をご参考に推薦をお願いします。現在挙げられている方は

- ・井上井月顕彰会（過日会長の北村皆雄様に卓話をいただきました。）
- ・「OKJ ファミリー」の小松 恵様（発達がゆっくりな子供の自立支援として、くぬぎの杜にて親子運動遊び教室を開催している。）
- ・こまち一ず（ボランティアで高齢施設等を訪問し楽器演奏を行っている。）

3. 青少年奉仕事業について

伊那ローターアクトクラブが無くなってしまい、現在の青少年奉仕事業は「伊那ロータリー杯」の開催、「ボーイスカウト伊那第1団」の支援、「伊那弥生ヶ丘高校キャリア教育授業」講師派遣です。今後継続して行っていきたい青少年奉仕事業について話し合ってください。

幹事報告 別紙をご覧ください。

ニコニコボックス 出席者全員からいただきました。

IGM の概要 テーマ 1. 「災害支援について」 2. 「ロータリー顕彰者について」 3. 「青少年奉仕事業について」

(◎印：リーダー ○印：セクレタリー)

A 班 赤羽弘之 ◎唐木一平 小林孝行 登内豊明

○馬場智義 三澤清美 山崎秀亮



1. 災害支援について

- ・お金を会員から集めずに拠出することは可能だが、意図した地域に届かない、貢献したことも広報されない可能性が大きい。
- ・作業は肉体的負担の大きさから厳しい。
- ・東日本大震災の経験を振り返ると、自治体宛は難しく、対クラブの方がやり易い。ただし、ロータリー宛寄付しても新聞には掲載されにくい。

- ・被災地の小学校等へのピンポイントの寄付で、地元のロータリーを飛び越えるのはよくない。
- ・地元（伊那）でも土蔵の壁が落ちたり被害はある。そういう所を探して何かするというのも手ではないか？地元を助けるということを広報の一環とした。

2. ロータリー顕彰者について

- ・60周年なので最低5つ程顕彰したい。現状の3候補は大変良い活動をしており外せない。
- ・境の中村荘二さん（赤羽会員の隣組）は、伊那東小学校東側の竜東線横断歩道にて15年間、子供の登校時見守りを個人的にしており顕彰に値する。
- ・ソロプチミスト元会長の清水さん等、他クラブで長期にわたり貢献されている人。

- ・90歳代で活躍しているような人を探して顕彰。
- ## 3. 青少年奉仕事業について
- ・ローターアクトは再起動しようと思えばできる。年齢制限も無くなる。
 - ・ローターアクトOBの意見を聞いてみては？
 - ・過去の延長と同じ考え方は通用しないのではないか？今の若い人自身の判断で決めるしかない。

B 班 大石ひとみ ○唐木 拓 小松献臣
中川博司 ◎原 義美 本田敏和



1. 災害支援について

- ・現状、国にも協力依頼している中で、どこに支援すれば良いか難しい。
- ・作業はできないから義援金で対応するしかない。
- ・理事会の一任で決めて良いのではないか。
- ・いくら寄付するかは会長が決めて良いのでは。
- ・企業も被災しているので、現地のRCに寄付しても良いのでは。→長野市周辺で（千曲も入れたら）6つのRCがあって絞りにくい。
- 長野県に対して寄付すれば公平。
- ・寄付の使い道を指定しないと、どのように使われたか分からなくなる。
- 駒ヶ根RCの例（市への寄付で各学校を指定）

2. ロータリー顕彰について

- ・50周年の際の反省を活かした方が良い。

- ・行政と絡んでやっている人が注目されやすいが、そうでない方が良い。

- ・予算がある団体だとお金があるので、無償でやっているの方が良い。

- ・伊那市の窓口候補者の情報を求める。

→社会福祉協議会、NPO法人等

- ・具体的な候補者

→宮田に上伊那をまわって無償で音楽を演奏している団体がある。

→権現山から駒ヶ岳の登山道を整備した90代の方がいる。

3. 青少年奉仕事業について

- ・インターアクトは、全国的に低下気味

→中央RCのように熱心にサポートする人がいないと難しい。

- ・交換留学生は短期（2,3か月）と1年がある

→近隣の高校は協力体制が積極的でない。

→ホームステイの引き受け手を確保する必要がある。

→ホームステイの補助は約5万（地区から）

- ・ローターアクト

→新しく復活するのは難しい

→目的を明確にしないと難しい

→年齢制限が緩和される可能性も

- ・ロータリークラブ自体の形が変わる可能性ある

→インターネットでの参加会員もできる

C 班 ◎唐木 章 小林旬子 ○城取健太 波多江崇史 原田和愛 藤澤秀敬 宮下光一



1. 災害支援について

- ・リンゴ農家の被害が大きいと聞いています。ロータリーでまとめて購入などして、勤続・誕生祝などの記念品にしたらどうか。栗などもいいかもしれません。

2. 表彰について

過去のリストを今一度振り返って見たらどうか引継ぎリストなどあってもいいかもしれません。

4. 青少年奉仕事業について

商工会議所で行う「おしごとごっこ」などサポートするのもいいかもしれません。